

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2023年 5月 22日	
所属部局・学年	野生動物研究センター
氏名	關 真理江

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
日本、宮崎県 串間市 幸島
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
野生動物・行動生態野外実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
2023年 5月 14日 ~ 2023年 5月 21日 (8日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
京都大学野生動物研究センター幸島観察所、杉浦・准教授、鈴木・技術補佐員
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
5月15日から21日まで宮崎県串間市の無人島である幸島、および都井岬にてそれぞれニホンザルと野生馬の行動観察実習を行った。 スケジュール 5/14: 移動 5/15: 幸島観測所に到着、幸島野外実習の準備 5/16: 幸島へ船で渡航、サルの観察。幸島の森にてGPSを用いたトラッキング 5/17: 幸島にてサルの観察。幸島の森にて各自で山頂へトラッキングを行う 5/18: 幸島観測所に戻る。 5/19: 都井岬に移動。野生馬の行動観察 5/20: 幸島観測所にて、サルの観察成果を発表 5/21: 帰省 今回の渡航では、幸島にてニホンザルの行動観察および都井岬にて野生馬の観察を行った。幸島には40頭弱で1つの群れを形成する主群と20頭程で構成されるマキ群、さらに群れを持たずに単独で暮らすヒトリオスと呼ばれる3グループに分類されるニホンザルが生息している。幸島は人の手が入っておらず給餌も週に3回程度鈴木氏のみが担当するため、ニホンザルは必要以上に人に干渉(餌をもらうために威嚇をする等)がない。そのため至近距離で彼らの行動を観察することが出来る。 幸島へは前日に観測所で打ち合わせを行った次の日(16日)の朝9時に船で渡航した。渡航に先立ち山登りに必要な以下の持ち物を準備した。(図1) ・ヘルメット、帽子 ・防虫の上着、登山服上下 ・GPS、コンパス ・双眼鏡、野帳、筆記用具 ・水筒、登山靴 渡航後、幸島でニホンザルの観察を行った(図2)。具体的には鈴木氏がニホンザルに対し麦を散布し、麦を食べている間のニホンザルの喧嘩や個体同士の干渉を記録したほか、給餌後の各個体のグルーミング行動を観察した。 私はニホンザルの喧嘩による順位付けを記録して全体的な群れの順位の推測を試みた。最終的にオスのサル(個体名:グレ)を α とするニホンザルの縦の順位構成を21個体で行うことが出来、群れの階層構造をある程度類推することが出来た。個々の喧嘩については、喧嘩で負けた個体が即座に自分よりも順位の低い個体に喧嘩を行う例と、順位が低い個体が次々に他の優位個体に攻撃されるケースが特徴的であった。 行動観察後、幸島の山へ入り山の登り方や道の見つけ方を教わった。幸島のおおどまりの浜の上から急峻でない斜面を歩き、峰で進路変更を行う。登山隊の先頭の者は後続の者が歩きやすいルートを立てるため、GPSや

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

コンパス、地図を用いながら慎重に歩いて行く。私は本格的な山登りの経験がなかったため、実際の地形を地図に落とし込む作業が難航した。しかし一度地形を理解できれば、峰の続く方向や崖前の危険な下り坂といった地形を想定して進行することがある程度出来るようになった。

2 日間の観察の後は幸島観測所に戻り、都井岬に向かった。都井岬には昔家畜として飼われていた馬が野生化して群れを形成して生息しており、サルと同様に間近に観察が可能である。都井岬では野生馬の行動観察を行った。基本的に馬の社会構成はオスが 1 頭とメス複数のハーレムで形成されていると聞いているが、オスが2頭いるケースが見られた。他の行動では馬同士のグルーミングが観察された。相互の馬が互いの前足の付け根や背の部分で連続で軽く噛む行動であった。伺った時期はちょうど馬の繁殖期であるため、1 度だけオス同士の接触が見られた。片方のグループにオスが接近した際、グループのオスがそのオスに向かって駆けていき首を押しつけて嘶いていた。前田氏曰く、この一連の動作は希にオス同士の小競り合いに発展する場合があるが、大抵は上記の動作で完結するらしく、「儀式のようなもの」と例えてらっしゃるのが印象的であった。

今回の幸島実習において、山に入る際の注意や必要な備品、動物の観察の行い方等フィールドワークを行う上で必要な知識を学ぶことが出来た。この経験を生かして自身で山へ入るときのルート構築や研究計画の作成を行っていく。

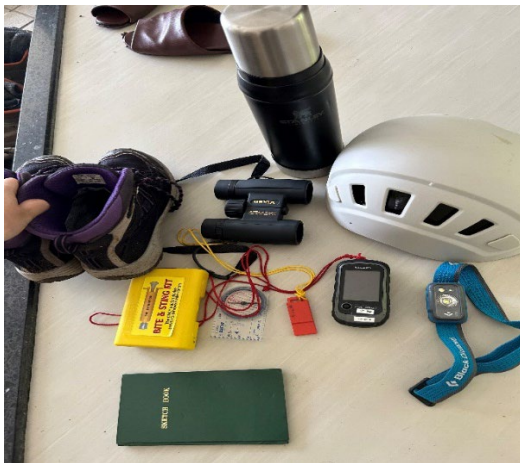


図 1 登山前の準備物



図 2 幸島のニホンザル

※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp】宛にご提出ください。

6. その他（特記事項など）